

出句用紙(番号 / )

作者名

桃

◎◎  
 おまたせと来たる老匠の木の葉髪

◎◎◎  
 待春の和氣に満ちたる画廊かな

◎  
 啄木の思惟しやういを鳴きぬ冬鷗

○  
 鮐魚ほうほうの鰭ほら南冥なんめいの浅葱色あさぎいろ

○  
 戦火埋め一葉谷の甘露の甘露

南柯句会



○○○			○○	
<p>路の臺村長ハ期勇退す</p>	<p>投票券握り進めし雪しまき</p>	<p>大雪や足跡たどり投票す</p>	<p>投票所迎へは小さき雪なるま</p>	<p>雪しまき目指すは第二投票所</p>

出句用紙(番号 3)

作者名 山崎 たか

早春サトウキチ優勝また味える

受験生父母同泊で令和の予

手袋を外にこりこくで初デート

露の葦産地と合わせて頼む酒

どなたから縁側ころがる露の葦

南柯句会

出句用紙(番号4)

作者名 関洋子

○	○	○○○		◎
AIを話し相手に二月尽 <small>いん</small>	ポケットの中で手繋ぐ寒日和	忽然と庭に鎮座の雪兔 <small>うせま</small>	悠久の光明日香のオリオンよ	ほろ苦き義母の天ぷらサ路の葦

◎ 大阿蘇は微動だにせず冬銀河

底冷えの奈良町豆腐屋の灯リ

山の辺の道ぽつぽつと路の臺

◎◎◎  
◎◎  
どんど爆ぜ人の輪一步二步下がる

○ 寒杵や夜の静寂に研して

出句用紙(番号6)

作者名 白井桃紅

大雪に埋まる故郷の夕間暮

手水舎の屋根に垂るる花の餅

骨董市粉雪積もる絵皿かな

凍滝の隙間を縫ふて水逃げる

山里に寄り添ふてをりせ路のたう

南柯句会

出句用紙(番号7)

作者名

南柯

新雪の小さき神社に足止まる

露の臺山神様の贈り物

結氷の透けて牛牯く稚魚の影

雪しまく遠くに二両電車の灯

思ひ出と眠りしワイン冬を越す

R8 2/8

南柯

南柯句会

出句用紙(番号 8)

作者名

しゃぼん

			○	
				日曜がキッチンにみる路の萱室
				乳歯抜けあとあとけなし路の萱室
				棚奥の、春のめざめしや路の萱室
				研穴九室隅の小籠や路の萱室
				敗戦国ともう言はれるも路の萱室

南柯句会

出句用紙  
番号  
 9

作者名 藤 久  
トシキ  
 久

兼	○ ○	○ ○	○	◎
熊 柿 し そ れ で も 採 り に 露 の と う	真 青 の よ 海 に 映 ゆ る や 黄 水 仙	梅 咲 ま つ 隣 家 よ り 香 の お す そ わ け	音 を 吸 ひ 雪 深 深 と 降 り ゆ け り	混 迷 の 世 に 肅 然 と 寒 昂

出句用紙(番号 10)

作者名 平華

	○	○○	○○	
夕時雨手に咲く花やふきのとう	アタラジの風と天矢てる文の梅	他愛なる話も鍋の中で煮る	小春日の庭で昼めし町工場	鏡割り上座の赤子ミルウ手に

南柯句会

出句用紙(番号 11)

作者名

近藤和卓

○○ ○○○	○○		○	○
息子より背の高い嫁日脚伸ぶ	干物屋に立春の札伊勢参り	下り坂雄株雌株とサ路の臺	路の臺コロポックルの見え隠れ	凍月やゲストは近藤房之助

南柯句会

出句用紙

(番号 12)

作者名..(安藤) 英彦

〇〇〇

賑はひは白息と消ゆ選挙戦

にぎ

しらいき

かななぎ

まが

えいせきは

寒風の舟に紛ふ泳跡波

かんながらす

畑起こす我が身になれば寒鴉

さ

ほほえ

にほひぐさ

壺挿しの白し微笑み匂草

兼題句

〇

ほろ苦く時は移ろひ露の臺



出句用紙(番号 14)

作者名

洗弥

女路の墓臺 まだ割れまらぬ柔まき心

並木にてあぢらと想ひ心春隣

日向ぼこ予定を一つ消しにけり

春霞天へ溶けゆく郷の町

寒厨や松まな板赤まき指

南柯句会

出句用紙(番号 15)

作者名 二 晁

〇〇	〇〇〇 <small>〇</small>	〇〇〇	〇	〇
春減し雨の包みの猫来たる	立春や漢 <small>あま</small> がつくる玉子焼	轍 <small>かた</small> 埋めたが降り雪の静 <small>し</small> 寂 <small>い</small> かな	知らさずに知られぬ場所の露の甘臺	秘め事をあまた隠して露の甘臺

南柯句会

出句用紙(番号 16)

作者名 米田 よし

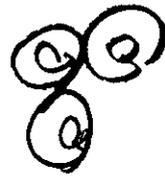
〇	〇	〇〇	〇〇	
吹雪く町鉄塔奥の法輪寺	中華街湯気の万を食へ歩く	春待ちぬ箸の先なる海老フライ	大寒やさて鳩なのか石なのか	大根引く上司の市場執務室

南柯句会

17

出句用紙・作者名・宮本こぼ

Q 漱石の朝はパン食菜の花忌

 品書きの墨書が躍る落の臺

Q 尼寺の精進料理落の臺

チヴィタの天空の村春隣り

Q 郵便局兼ねる理容師落の臺

出句用紙・作者名・鮫島しようん

Q ギター買う動機は不純路の臺

○ 湯上りに仁王立ちして寒の水

雪知らぬ子の振り回す一センチ

春隣葱のこぞって天を突く

○ 心象の色濃きトスカーナの薊

出句用紙・作者名・富野香衣

①⑨

一 餞別の封筒回りヒヤシンス  
一 あんぐりと寒明けて恋を手放す

主幹

①特都合よく忘るる母や春炬燵

春泥へ大きくピンヒール一歩  
正統合に消えし母校や露の臺

出句用紙・作者名・横田清史 ㊦

〇〇 押し活の詳細を聞く浅き春

〇 水量の少なき土手に梅開く

〇 春の風邪下宿の息子の細い声

春寒や熱気みなぎる選挙カー

露の臺雄株と雌株があるらしい

出句用紙・作者名・山本わか

ぎっしりと野原のぼたん落の臺

④ひそやかに大地の取っ手落の臺

⑤落の臺信頼されている力

踏み入った質問の間よ雪催

エーアイ

AIの寄り添ひ瞬時春手套

出句用紙・作者名・岡本へちま

22

☪  
池凍る木の葉も泡も閉じ込めて

ぬくもりの籠る言の葉息白し

花園といふ駅のあり寒の月

陽に解けて池に水鳥戻りくる

○○  
戸締りの要らぬ山里路の臺

作者名

文蔵

一	妣 <small>はは</small> 摘みし路のたうなりけふの市
一	石段を唇取らる路の臺
特一	ふきんたう幽 <small>かえ</small> けき <small>えい</small> 、斂味の小地球
一	職人の掌 <small>て</small> の冷たさや鮎一貫
一	梅二輪 AM9時のミコウノ行き

	○			◎◎
生命の幕間に憩ふ、枯野かな	奈良町の路地は鄙びて小雪かな	山焼きの肌雪化粧 若草山	林道の雪の切れ端に笹路の葎	笹路の葎コロポックルの目覚めかな